

IPBCダイアログ2024における日本政府主催ブルーカーボンイベント



- 令和6年10月2日、IPBCダイアログ2024開催に合わせて、同会議参加者を招待して日本政府主催でブルーカーボンに関するイベント「Blue carbon actions in Japan」を開催。
- IPBCダイアログ2024本編においても、日本の取組（地域活動支援、GHGインベントリ算定等）を発信する。

「Blue carbon actions in Japan」

- 主催：環境省
- 趣旨：海藻食、メディア発信、モニタリング等
日本の産官学によるブルーカーボン取組を世界に発信
- プログラム
 1. ブルーカーボンの取組み紹介（敬称略）
 - ① 環境省 脱炭素社会移行推進室 岡野祥平
 - ② 国土交通省 港湾環境政策室 中嶋義全
 - ③ 横浜市 脱炭素ライフスタイル推進課 越川祐介
 - ④ 日本テレビブルーカーボンプロジェクト 越智慎一郎
 - ⑤ 同志社大学ハリス理化学研究所 柊太一
 - ⑥ 富士通コンバージングテクノロジー研究所 境克司
 - ⑦ 合同会社シーベジタブル 濱田航
 2. パネルディスカッション、質疑
- ポイント
 - ・ 世界各国のブルーカーボン担当官に、日本のブルーカーボン取組、食への活用等をアピール。
 - ・ 政府や地域の取組に加えて、**海藻料理**、**藻場データ可視化**、**モニタリング**手法開発、**メディアによる情報発信等**、**地域活動の支援**につながる日本企業の取組にも脚光を当てる。



写真：
右上、左下：PULLMAN CAIRNS ウェブサイト
中央、右下：合同会社シーベジタブル ウェブサイト

環境省ブルーカーボンウェブサイトのリニューアル



- 現行のウェブサイトのデザインを大幅リニューアル（令和6年9月11日）。
- 効果的な情報集約と発信により、カーボンにとどまらないマルチベネフィット推進に貢献していく。

BEFORE

ブルーカーボンに関する取組み

[ホーム](#) > [政策](#) > [政策分野一覧](#) > [地球環境・国際環境協力](#) > [地球温暖化対策](#) > [ブルーカーボンに関する取組み](#)

重要なお知らせ

- ・世界で初めて海藻藻場・海藻藻場の吸収量を合わせて国連に報告しました（2024年4月12日）
報道発表「2022年度の我が国の温室効果ガス排出・吸収量について」
- ・「我が国インベントリにおける藻場（海藻・海藻）の算定方法について」を公開しました（2024年2月28日）
- ・COP28での「国際連携によるブルーカーボンの推進」イベントの内容を公開しました（2023年12月26日）
- ・我が国におけるブルーカーボン取組事例集を公開しました（2023年12月11日）
- ・環境省のブルーカーボンに関する取組みWEBページ公開しました（2023年11月10日）

1. ブルーカーボンとは

（1）ブルーカーボンとは

沿岸・海洋生態系に取り込まれ、そのバイオマスやその下の土壌に蓄積される炭素のことを、ブルーカーボンと呼びます。2009年に公表された国連環境計画（UNEP）の報告書「Blue Carbon」において定義され、吸収源対策の新しい選択肢として世界的に注目が集まるようになりました。ブルーカーボンの主要な吸収源としては、藻場（海藻・海藻）や干潟等の塩性湿地、マングローブ林があげられ、これらは「ブルーカーボン生態系」と呼ばれています。

（2）ブルーカーボン生態系の特徴

■海藻（うみくさ）

海中で花を咲かせ種子によって繁殖し、海中で一生を過ごすアマモなどの海産種子植物。比較的浅いところに多く、海底深くに生育することはない。アマモ、スガモ等。

■海藻（うみも）

海中で生活する藻類。胞子によって繁殖する。海藻の根は栄養吸収のためではなく、岩に固着するためのもので、葉色によって緑藻・褐藻・紅藻の3種類に分けられる。コンブ、ワカメ等。

■干潟

干潮時に干上がり、満潮時には海面下に没する潮間帯において砂質または砂泥質の浅場がひろがっている場所。河川や沿岸流によって運ばれてきた土砂が、海

AFTER



環境省webマガジン「ecojin（エコジン）」の特集に掲載



- エコジン令和6年8月28日号に特集「ワカメやコンブがCO₂を減らす？」として掲載。
- 環境省SNS（X、Facebook）でも発信。



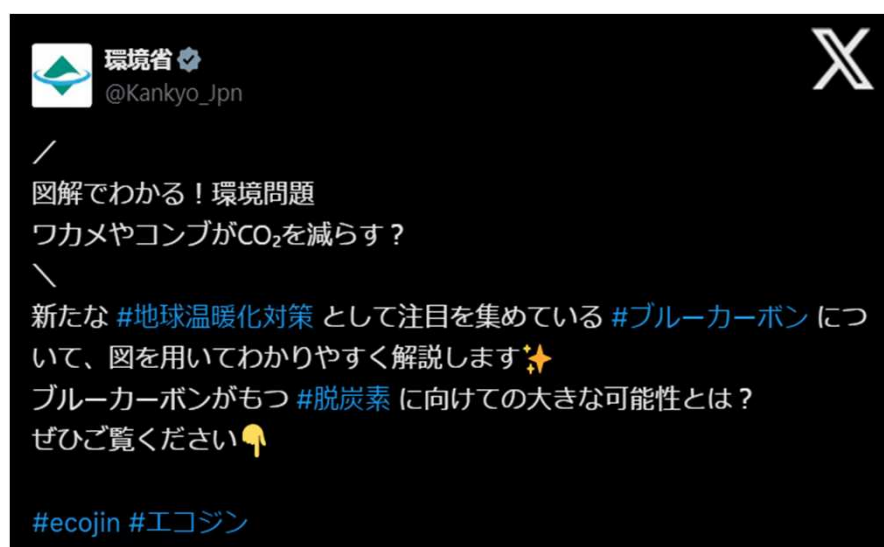
今、注目を集める新たな地球温暖化対策

新たな地球温暖化対策として大きな注目を集めている
「ブルーカーボン」とは、こういったものなのでしょうか。

2024.08.28

自然環境

脱炭素



(参考) 国際パートナーシップへの加盟 (令和5年8月)



- 2015年のCOP21で発足した、ブルーカーボン推進のための国際パートナーシップ (IPBC) について、我が国環境省として令和5年8月に正式加盟。
- UNESCOの協力のもと、オーストラリア気候変動・エネルギー・環境・水資源省 (DCCEEW) が中心となり運営。他国の取組状況の把握、我が国の取組の発信等を予定。

*IPBC: International Partnership for Blue Carbon

● ビジョン :

- 世界のすべての沿岸のブルーカーボン生態系 (マングローブ、干潟、海草) が保護され、持続可能な形で管理され、あるいは復元され、気候変動の緩和、適応、生物多様性、海洋経済、沿岸地域社会の生活に貢献すること

● 目的 :

- ブルーカーボンに係る普及啓発、知識の共有、及び活動推進のため、政府、実務者、及び科学者を結びつけること

● ゴール :

- ① ブルーカーボン生態系を保全するための国際約束を増加させること
- ② ブルーカーボン生態系を保全、保護、再生するための国内政策を進めること
- ③ ブルーカーボンに係る保全、保護及び再生活動の着実な実施を加速すること

● メンバー及び組織体制

- 政府 : オーストラリア (コーディネーター)、米国、フランス、英国、UAE、韓国等19カ国の省庁
- 非政府組織 : WWFなど13組織
- 研究機関 : 港湾空港技術研究所 (日本) 等17機関
- 国際機関 : UNESCO、IUCN等9機関

● 活動内容

- COP等におけるWS開催、ダイアログ会合 (年1回) 開催、不定期オンライン会合、報告書やパンフレット作成等。
- 直近の第5回ダイアログ会合 (2023年2月、於 : UNESCO本部、フランス) には、オンライン・対面合わせて21カ国から80名程度が参加。

